



TITLE:

前立腺肥大症に対するSH 582の使用経験

AUTHOR(S):

小林, 睦生; 三木, 誠

CITATION:

小林, 睦生 ...[et al]. 前立腺肥大症に対するSH 582の使用経験. 泌尿器科
紀要 1970, 16(9): 446-449

ISSUE DATE:

1970-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/121168>

RIGHT:

前立腺肥大症に対する SH 582 の使用経験

東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室（主任：南 武教授）

小 林 睦 生
三 木 誠

CLINICAL EXPERIENCE WITH SH 582 FOR PROSTATIC HYPERTROPHY

Chikao KOBAYASHI and Makoto MIKI

*From the Department of Urology, the Jikei University, School of Medicine, Tokyo
(Director: Prof. T. Minami)*

20 patients (aged 56-80) with prostatic hypertrophy received intramuscular injection of SH 582 over a period of 1 to 5 months; the weekly dosage was 300 mg which was divided into one or three doses. SH 582 was clinically found effective for prostatism. It seems that the preparation is worthy of trial in patients who are unable or unwilling to receive surgical procedure.

緒 言

過去10年間に於ける本学教室での前立腺疾患に対する手術は600例をこえ、そのうち前立腺肥大症手術は427例であり、年々増加の傾向をみせ、泌尿器科領域における老年性疾患のうち主要な位置を占めている。しかし高齢であるため、心肺疾患や、一般状態不良で手術不能な患者も数多く、保存的療法によって、その進行を阻止する内分泌療法が今までに種々使用されてきていた。

今回われわれは日本シェーリング株式会社より SH 582 の提供をうけ、前立腺肥大症患者に試み、その効果を検討した。

SH 582 は 1 ml 中に 19-nor-hydroxyprogesterone caproate を 100 mg 含有する。

治療対象および使用方法 (Table 1)

当科外来で受診した患者で、直腸診、尿道膀胱レ線撮影および内視鏡検査で良性の前立腺肥大症と診断したが、手術を希望しないもの、全身状態とくに心肺疾患が悪くすぐに手術をおこなうには不適当なもの20例をえらんだ。年齢は56～80才であり、その平均は71才である。来院時主訴は排尿困難11例で最も多く、ついで尿閉、頻尿の順で、症状発現から来院までの期間は

最長が6年、最短は7日であった。なお最長6年間の症例7は3年前から他病院で種々の治療をうけてきているが他の19症例は今までに一度も本症に対する治療はうけていない。触診上の前立腺の大きさは、リンゴ大から超クルミ大までであり、表面平滑、結節はなく、正中溝は消失または非常に浅くなっている。来院時残尿量は最高が900 ml、最少が6 ml で、IVP では症例2および13で尿管下端が前立腺肥大症による鉤状がみられたほかは正常であった。

投与方法は症例1～12まで SH 582 100 mg を週3回、症例13～20までが SH-582 300 mg を週1回筋肉注射した。投与期間は1～5カ月間である。

検 査 事 項

臨床症状、残尿量、排尿状態、前立腺の大きさ、血液電解質、肝機能におよぼす影響、性欲におよぼす影響について、一人の医師が診療を担当しておこなった。

治 療 成 績

1) 臨床症状 (Table 2)

排尿回数：日中の排尿回数は注射後目だった改善はなかったが、2～3回の排尿回数の減少があり、症例7および13では注射前13回から注射後5回と減少をみ

Table 1 A. SH 582 100 mg 3回/週 使用症例

No.	氏 名	年令	主 訴	来院までの 期 間	前立腺の大きさ	残 尿 (ml)	IVP
1	西 野 某	68	排尿困難	3 カ月	超 鶏 卵 大	215	正 常
2	松 林 某	70	排尿困難	4 年	鶏 卵 大	160	尿管下端 hook 状
3	佐 藤 某	75	排尿困難	3 カ月	超 クルミ 大	60	正 常
4	松 山 某	56	排尿困難	7 日	小 鶏 卵 大	90	正 常
5	前 場 某	62	尿 閉	2 年	超 鶏 卵 大	780	正 常
6	鶴 沼 某	67	排尿困難	3 年	小 鶏 卵 大	80	正 常
7	相 原 某	79	頻 尿	6 年	超 鶏 卵 大	100	正 常
8	後 藤 某	62	頻 尿	1 カ月	超 クルミ 大	6	正 常
9	田 村 某	67	残 尿 感	20 日	超 クルミ 大	70	正 常
10	高 田 某	73	排尿困難	7 カ月	小 鶏 卵 大	85	正 常
11	中 沢 某	80	排尿困難	3 カ月	小 鶏 卵 大	65	正 常
12	高 橋 某	76	頻 尿	4 カ月	鶏 卵 大	180	正 常

Table 1 B. SH 582 300 mg 1回/週 使用症例

No.	氏 名	年令	主 訴	来院までの 期 間	前立腺の大きさ	残 尿 (ml)	IVP
13	安 藤 某	77	尿 閉	5 年	リ ン ゴ 大	900	尿管下端 hook 状
14	長 沢 某	78	尿 閉	1 年	鶏 卵 大	340	正 常
15	永 井 某	68	頻 尿	5 年	超 クルミ 大	90	正 常
16	長 沢 某	74	排尿困難	4 年	超 クルミ 大	100	正 常
17	樋 口 某	74	尿 閉	5 年	超 鶏 卵 大	500	正 常
18	鷺 見 某	66	排尿困難	1 年	小 鶏 卵 大	160	正 常
19	梶 原 某	72	排尿困難	6 カ月	小 鶏 卵 大	90	正 常
20	西 村 某	72	排尿困難	4 カ月	鶏 卵 大	110	正 常

たが、来院時検尿で尿路感染症があり、抗生物質を投与していたので、本剤の効果とは判定しがたい。

夜間頻尿：症例3，14に著明な改善がみられたが、全般的には注射後1～2回の減少があった。

残尿感：残尿量と平行して非常な改善がみられ、14例に残尿感消失、5例にわずかな残尿感を訴える程度になった。

2) 残尿量 (Table 3)

全例に著しく改善を示し、投与期間が長期間にわたるほど残尿量が減少し、来院時の残尿量が多いほど改善率はよい。

3) 排尿状態 (Table 4)

排尿開始時間：8例に著明な改善がみられ(斜線は尿閉で来院した患者)、5例がやや改善し、8例は不変の状態であった。

排尿時間：12例が著明に短縮し、5例がやや短縮し、1例が不変、2例は注射後かえって延長した。

自出尿量：12例が増加し、3例が不変、5例に減少がみられた。

自出尿の出かた：10例に著明な改善がみられた。尿閉で来院した4例は1カ月後には、良好1例、尿勢弱

い1例、滴下状2例といずれも自出尿があり、注射期間中1例は尿閉となり1回導尿をうけたが、他の3例は尿閉とはならなかった。

4) 前立腺の大きさ (Table 5)

尿道膀胱レ線撮影上全症例ともはっきりした縮小像は見られなかったが、触診上では6例に縮小をみたが他ははっきり縮小した印象は得られなかった。

5) 血液電解質・肝機能におよぼす影響

血液電解質への影響は全症例ともなく、肝機能ではGOT・GPTが症例15で注射前GOT 19, GPT 15が注射後3カ月でGOT 61, GPT 81と上昇がみられたほかは影響をみなかった。

6) 性欲におよぼす影響

高年令者を対象としたためか、67才以上の16例は注射前から性欲がすでになく、本剤の影響は不明であるが、症例4，56才症例5，62才症例8，62才は注射後もとくに性生活会の減退を感じたことはない。なお症例18，66才は不明である。

代表的症例の臨床経過

症例17

樋口某 74才 初診1969年12月11日。

Table 2 臨 床 症 状

No.	排尿回数		夜間頻尿		残尿感	
	前	後	前	後	前	後
1	8	7	3	1	+	-
2	8	6	2	2	+	±
3	8	5	6	2	+	±
4	10	8	1	1	+	-
5	7	6	2	1	+	-
6	6	5	5	3	+	-
7	13	5	2	1	+	-
8	7	6	5	3	+	+
9	10	8	4	2	+	-
10	9	8	3	1	+	-
11	8	6	4	3	+	-
12	7	6	3	3	+	-
13	13	5	2	2	+	-
14	10	6	6	2	+	±
15	8	8	4	2	+	±
16	12	10	3	2	+	-
17	7	6	5	4	+	-
18	8	6	4	3	+	-
19	11	9	5	4	+	±
20	13	10	4	2	+	-

Table 3 残 尿 量

No.	注射前 (ml)	注 射 後 (ml)				
		1カ月	2カ月	3カ月	4カ月	5カ月
1	215	80	40	5		
2	160	70				
3	60	30				
4	90	20				
5	780	100	90	80	70	20
6	80	49	24	15	10	10
7	100	70	50	35	20	20
8	6	5				
9	70	60	60	50	40	15
10	85	50	20	15		
11	65	40	25			
12	180	90	40	40	20	
13	900	200	95	70	50	40
14	340	120	100	100	80	30
15	70	40	20	10		
16	100	80	60	40	10	
17	500	125	80	20	3	
18	160	90	70	70	60	
19	90	50	30	20		
20	110	70	90	30	50	40

Table 4

No.	排尿開始時間(秒)		排尿時間(秒)		自出尿(ml)		排 尿 状 態	
	前	後	前	後	前	後	前	後
1	30	5	75	60	85	458	尿勢弱く、滴下状	良 好
2	23	5	80	60	60	180	滴 下 状	尿勢弱いが良好
3	75	10	80	55	60	50	尿勢弱く、中絶多い	良好なるも中絶あり
4	5	5	50	30	275	180	滴 下 状	尿 勢 弱 し
5	—	15	—	50	—	240	—	滴 下 状
6	16	15	65	50	250	300	尿勢弱く、細い	良 好
7	15	9	40	28	200	320	尿勢弱く、中絶あり	良 好
8	24	21	68	60	220	200	尿勢弱く、分裂あり	尿 勢 弱 い
9	10	15	52	35	325	330	尿勢弱く、細い	尿 勢 弱 い
10	34	24	60	50	280	340	滴 下 状	尿 勢 弱 い
11	40	30	65	43	250	350	尿 勢 弱 い	尿 勢 弱 い
12	18	15	38	40	290	250	尿 勢 弱 い	良 好
13	—	24	—	80	—	180	—	滴 下 状
14	—	19	—	60	—	215	—	尿 勢 弱 い
15	25	20	55	80	80	110	滴 下 状	尿 勢 弱 い
16	50	40	76	60	150	170	尿 勢 弱 い	やや 良 好
17	—	21	—	40	—	150	滴 下 状	良 好
18	40	20	20	15	180	170	滴 下 状	中絶あるも良好
19	45	29	70	55	200	250	尿 勢 弱 い	尿 勢 弱 い
20	25	30	30	30	150	210	尿 勢 弱 い	良 好

Table 5 前立腺の大きさ

No.	注 射 前	注 射 後
1	超 鶏 卵 大	超 鶏 卵 大
2	鶏 卵 大	鶏 卵 大
3	超 ク ル ミ 大	超 ク ル ミ 大
4	小 鶏 卵 大	小 鶏 卵 大
5	超 鶏 卵 大	鶏 卵 大
6	小 鶏 卵 大	ク ル ミ 大
7	超 鶏 卵 大	小 鶏 卵 大
8	超 ク ル ミ 大	超 ク ル ミ 大
9	超 ク ル ミ 大	超 ク ル ミ 大
10	小 鶏 卵 大	小 鶏 卵 大
11	小 鶏 卵 大	小 鶏 卵 大
12	鶏 卵 大	ク ル ミ 大
13	リ ン ゴ 大	リ ン ゴ 大
14	鶏 卵 大	ク ル ミ 大
15	超 ク ル ミ 大	超 ク ル ミ 大
16	超 ク ル ミ 大	超 ク ル ミ 大
17	超 鶏 卵 大	小 鶏 卵 大
18	小 鶏 卵 大	小 鶏 卵 大
19	鶏 卵 大	鶏 卵 大

主訴：尿閉

現病歴：5年前に夜突然尿閉となり某医で導尿をうける。以後尿勢悪いながらも自出尿はあったが、残尿感は強く感じていた。

2～3年前から飲酒すると尿閉がおこりその都度導尿をうけていた。

尿所見：特に所見なし。

治療経過：SH 582 300 mg を週1回注射するに、つぎの日から尿が比較的良好に出るようになったが3日目から尿の出かたが滴下状となる。第2回目の注射以後は尿の出はよくなり、残尿感も少なくなり、1回の尿量が増加してきた。注射後4カ月目の現在残尿は3 ml となった。

考 按

前立腺肥大症は60才以後の男性の65%以上に発現し、そのうち30～40%が臨床症状を呈するといわれており、その主症状は排尿障害であり、この原因は腺腫の増大、周囲組織の充血浮腫が関与しており治療目的は排尿障害の除去と腎機能の改善にある。

従来エストロゲンやアンドロゲンをを用いてのホルモ

ン療法が試みられてきているが、かなりの副作用があった。SH 582 (hydroxy-progesterone caproate) は生物学的に純粋な黄体ホルモン剤であり、内因性のエストロゲン作用、アンドロゲン作用がない薬剤であるので前立腺癌の発症、女性型乳房、インポテンツ、人格変化などの副作用がないといわれている。1965年 Geller らが残尿量の減少、45～55%の前立腺の縮小を得たと報告しており、1968 Burger, 1969 Scott らも良好な成績をえたと報告している。

われわれの SH 582 の治療効果についてみると、臨床症状ではとくに残尿感の改善は95%にみられ、夜間頻尿も全症例とも1～2回の減少をみた。本症の患者は排尿困難が伴うためにすこしの尿意でトイレに行く習慣があるようで、治療効果の判定はむずかしいものと思われる。残尿量は95%減少を認め、注射期間が長期間にわたるほど残尿は減少し、SH 582 300 mg を週1回の場合は早期に残尿量が減少し、SH 582 100 mg 週3回の場合は残尿量の減少はややおくれるようである。排尿状態の改善は70%にみられた。前立腺の縮小は30%にしかみられなかった。副作用については全症例とも特記すべき副作用はおきなかった。

結 語

56から80才までの前立腺肥大症患者20症例にSH 582 を1～5カ月にわたって注射し、その効果を検討し、臨床的に有効な結果をえた。

手術不能な症例や手術を希望しない患者に対しては試みる薬剤であると思う。

文 献

- 1) Geller, J.: J. A. M. A., **193** (2): 121-128, 1965.
- 2) Wolf, H.: J. Urol., **99** (6): 780-785, 1968.
- 3) Burger, A. J. S.: Med. Proc., **6**: 116, 1968.
- 4) 高井修道：日泌尿全書7, **IV**: 41, 1960.
- 5) 志田圭三・ほか：診断と治療, **51** (2): 67, 1963.
- 6) 大村順一・ほか：日泌尿会誌, **56** (6): 594, 1965.
- 7) 矢戸仙太郎・ほか：外科診療, **4**: 43, 1962.

(1970年6月29日特別掲載受付)